ひみつ道具に宿る思想，または考察のすすめ

京都大学理学部３回生 前田悠陽

はじめに

「好きなひみつ道具は何か？」もしくは「ひとつだけ手に入れられるとしたら，どのひみつ道具が欲しいか？」という質問に直面したことのないドラえもん好きはいないと思います．この質問をされると，まず身構えます．質問をしてきた相手はどのくらいひみつ道具を知っているのか，それ以前に，数あるひみつ道具の中からどのような基準を持ち出していちばんを決めるのか……いわば，続くドラえもんトークへの臨戦態勢に入るわけです．

今，この文章をしたためている傍らには，おびたただしい数の付箋が貼られた『ドラえもん 最新ひみつ道具大辞典』が置かれています．この付箋は，以前ドラえもんの二次創作を書いていたときに辞書代わりに使っていた名残ですが，この中から，最初に問題提起した質問の答えを考えてみました．私の場合，好きなひみつ道具と欲しいひみつ道具は一致しないので，ふたつ挙げることにします．

まず，好きなひみつ道具は「荷物運び用荷物」です．真っ先に「これをひみつ道具と呼んでよいのか」という指摘が飛んできそうですが，何をひみつ道具と定義するかは非常に難しい問題です．例えば，ドラえもんの四次元ポケットから出てきたものをひみつ道具と定義してしまうと，ただのやかんや食器，トイレットペーパー，「こわれておわびする」ための巨大なハンマーまでひみつ道具に分類されてしまいます．何かうまい定義がありそうですが，これ以上は話が脱線するのでやめておきましょう．さて，この「荷物運び用荷物」ですが，原作での登場は大長編『のび太とブリキの迷宮』のみで，用途としてはその名前の通りです．ひみつ道具大百科の説明では，「ホテルのボーイさんに恥をかかせないための荷物」と書かれています．好きなひみつ道具と欲しいひみつ道具が一致しないと書いた理由は，言わずもがな理解して頂けたと思います．好きの理由については，ここではあえて言及を避けたいと思います．

次に，欲しいひみつ道具は「ハツメイカー」です．この答えには共感する方も多いのではないでしょうか．これも原作での登場はてんコミ 30 巻『ハツメイカーで大発明』のみですが，個人的には強く印象に残っているひみつ道具です．大百科の説明では，「ほしい道具をこの機械に注文すると，設計図を出して，作り方を教えてくれる」と書かれています．私がこのひみつ道具を欲しい理由は，「どんなひみつ道具でもハツメイカーで作れてしまう」という包含性ではなく，むしろどんなひみつ道具でも出てくるのは設計図だけで，自分で「作らなければならない」という点にあります．つまり，ハツメイカーの核心は，ハツメイカーによって得られる道具ではなく，それを作る過程，さらに遡って道具を作る動機，すなわち「思想」にあると私は考えています．

ここでさらっとタイトル回収を済ませたわけですが，そもそも「ひみつ道具に宿る思想」

とは何なのでしょうか？「はじめに」にしては少し長い文章になってしまいましたが，以下では具体的な，もっと言えば原作にたった一度しか登場していないようなマイナーなものではなく，もっとなじみの深いひみつ道具を例に出して考えていきたいと思います．

「どこでもドア」は「どこでもまど」を包含するか？

「どこでもドア」というひみつ道具を知っていますか，と日本語話者に質問して，いいえという答えが返ってくることは，非常にまれだと思います．それでは，「どこでもまど」というひみつ道具を知っていますか，と同じように質問したらどうでしょうか（ちなみに，てんコミでは「どこでもまど」で，大百科では「どこでも窓」表記ですが，ここでは前者を採用します）．「どこでもまど」はてんコミ 34 巻『水たまりのピラルク』に登場するのみですが，その登場頻度の低さに対して，知名度はそれほど低くないように思います．その理由は，このひみつ道具が「どこでもドアと何が違うんだ」という指摘を受けてきた点にありそうです．この，どこでもドアよりも小さく，のび太の腕がなんとか通る程度の小窓しか持たない「どこでもまど」の存在意義について，次のように問題を言い換えてみます．つまり，「どこでもまどは，なぜ発明されたのか？」ということです．

この問題については，ネット上でも多くの意見が出ています．例えば，

・「どこでもドア」と「どこでもまど」は，別の企業が開発，販売している競合製品である
・「どこでもドア」に対して，狭い場所での使用や，小物を運ぶことを想定している
・単純に「どこでもドア」の廉価版である
・「どこでもまど」の方が小型なので省エネである

など，考えれば他にももっと仮説が出てくるでしょう．また，現代においても「どこでもドア」と「どこでもまど」のような関係にある商品，すなわち小型版なるものがありますが，未来の世界では，四次元ポケットの存在によって「小型化による持ち運びのしやすさ」という概念が消失している可能性が高いので，「どこでもまど」を「どこでもドア」の単なる小型版として捉えることは現実的ではありません．「どこでもまど」が発明されるに至った「思想」がどこかにあるはずなのです．

この「思想」は，必ずしも高尚な理念や，社会正義的なものを含んでいるわけではありません．ただ，「どこでもドアって，遠くに住む友達と荷物のやり取りをするくらいなら大きすぎるよね．もっと小さいのがあってもいいのに」というものや，「四次元ポケットから取り出して立てるのに，子どもや女性でも簡単に持てれば楽なのに」といった，極めて個人的なものでもいいのです．

ひみつ道具の中には，とかく似たような機能を持つものが多いです．そうした，一見する

と意味のないように思える道具も，「思想」という視点から捉え直すことで見えてくるものがあるのではないか……私はそう考えています.

ひとつめのまとめ

ここで，「ハツメイカ―」の話に戻ってみましょう．『ハツメイカ―で大発明』の中で，のび太はある興味深いひみつ道具を作り上げます．それは「ドラえもんとなかなおり機」です．その内容は，ただ玉ねぎのみじんぎりが入ったボウルに顔を突っ込んで涙を流させ，ドラえもんに頭を下げるというだけのものですが，ここまでの議論を踏まえれば，このひみつ道具には明確な「思想」があると思いませんか？

これは，「荷物運び用荷物」ではより顕著です．前述の通り，四次元ポケットの存在によって「物の持ち運び」という行為が意味を失った時代における「思想」が，この意味のないように思えるひみつ道具に詰まっている……そう考えると，ひみつ道具の世界がぐっと広がったように感じられるのではないでしょうか.

ふたつめの「はじめに」

ここまでの話を読んで，「ひみつ道具に思想があるだなんて，そんなの当たり前じゃないか」「ひみつ道具に限らず，現代のあらゆる商品にも言えることじゃないか」という指摘が浮かんだ方はまったくもって正しいです．「ひみつ道具に宿る思想」は何も未来世界の専売特許ではありません．現代にも，「設計思想」という言葉がちゃんとあります.

この「思想」を通して私が提起したいことは，タイトルの後半である「考察のすすめ」です.

「どらやき」と「ドラヤキ」の使い分けについて

私はよく，誰にも見せるつもりのないドラえもんの二次創作を書きますが，このとき最も気を配ることのひとつに，表記の問題があります．こうした表記の違いには，絶対的な正解はないとするのが私の立場です．ドラえもんは，原作が『小学一年生』から『小学六年生』，さらには『よいこ』といった幼児向け雑誌にまで掲載されたため，漢字の表記を見ても統一されていません．「どこでもまど」と「どこでも窓」のように，てんコミと大百科で表記の異なるものも少なくありません．こうした表記の違いは，私は状況や言葉の響きによって使い分けることが多いです．「どこでもまど」の方が響きが柔らかいから，こっちを採用し

よう，となるわけです.
つまり，ドラえもんがおやつに食べるおかしは，「どらやき」でも「ドラヤキ」でも，もしくは「どら焼き」でもよいということです．もっと極端なことを言えば，私は「ドラえもん」を「どらえもん」と表記しても，その違いに問題はないと考えています．実際に，歌人の穂村弘氏は，小学館刊の自著『ラインマーカーズ』において次のような短歌を残しています.

ハーブティーにハーブ煮えつつ春の夜の嘘つきはどらえもんのはじまり

「思想」から生まれる考察

前節で，表記は基本的に自由だという趣旨のことを書きました．これは，「思想」が自由であることと繋がっています．そして「思想」は，考察と地続きになっています.
「どこでもまど」の思想を思い出してみましょう．例えば，「どこでもまど」が発明された理由として，「どこでもドアの廉価版として発明された」を採用してみると，今度は「どこでもドアの値段を決定づける要素はなんだろう」という疑問が浮かんできます．ドアノブの部分か，それともドア枠の面積の大きさか……これは既に考察の入り口に立っています.
ドラえもんという作品をより深く知り，理解する出発点は，この「思想」を考える部分にあるのではないでしょうか.

本当のまとめ

長々と書いてしまいましたが，結局のところ私が伝えたかったことは，考察という行為の楽しさです.
ドラえもんという作品はあくまで生活ギャグ漫画であって，その連載期間の長さもあり，作品全体を通して整合性に欠ける部分もあります．有名なものを挙げれば，ドラえもんとのび太が恐竜がりに出かけるお話は，航時法に違反するとして度々ネット上で話題になります.
しかし，そうした部分のみを切り取って，考察という行為をばっさりと切り捨ててしまうのは，私はあまりにももったいないなと思うのです.
むしろ，そうした矛盾も取り込んで「思想」を見出し，考察をする……そうした楽しみ方から，新たなドラえもんの魅力が見つかるのではないかとさえ思っています.